

災害対策功労者岩手河川国道事務所長表彰

個人・団体名	功績概要
井上博泰 (盛岡市在中)	平成19年9月洪水時に、盛岡市見前地区及び紫波町彦部地区における水防団の活動に際し水防工法を選定し、釜段工法及び月の輪工法の指導を行うとともに自らも率先して水防活動を実施した。
幸谷摩文 (奥州市在中)	平成19年9月洪水時に、奥州市水沢区吹張地区における水防団の活動に際し水防工法を選定し、釜段工法及び月の輪工法の指導を行うとともに自らも率先して水防活動を実施した。
栗原建設(株) 代表取締役 千葉裕之 (奥州市)	「水沢地区河川維持工事」を担当する栗原建設(株)は、平成19年9月洪水時に奥州市水沢区二渡地区及び江刺区岩谷堂地区において被災箇所を早期に発見し、また水沢区吹張地区を含めた3地区に対し、土のうや塩化ビニール管、防水シート等の水防資材の提供、さらに自らも作業員8名で釜段工法、月の輪工法による水防活動を実施し、二次災害の未然防止に努めた。
(社)東北建設協会 岩手支所長 西川 和雄 (盛岡市)	平成19年9月洪水時に、奥州市吹張地区及び金ヶ崎町三ヶ尻地区における水防団の活動に際し水防工法を選定し、釜段工法及び月の輪工法の指導を行うとともに自らも職員7名により率先して水防活動を実施した。
(株)東開技術 代表取締役 加藤 清虎 (奥州市)	平成19年9月17日の大雨により北上川上流では戦後6番目の出水となり、沿川地域で多大な被害をもたらした。このため、優先的に人員を配置し吹張地区、二渡地区、岩谷堂地区、川島地区の4地区の現地調査及び復旧に係る設計を迅速かつ的確に行い、災害復旧申請及び工事に貢献した。
(株)千葉建設 代表取締役 千葉 憲司 (一関市)	平成19年9月17日出水時に砂鉄川右岸針山地区の漏水災害箇所において、水防活動への中詰め土、投光器等の水防資材提供、また作業員5名で自らも水防活動を実施し、二次災害の未然防止に努めた。なお、出水が長期化したため、体調不良の水閘門操作員(神平第1排水樋管、千厩川水門を作業員4名)が出たため、操作員の補助要員の提供も行った。
奥州市江刺区消防団 団長 高橋守	平成19年9月洪水時に、奥州市江刺区内の各堤防等を水防団として昼夜を問わず巡視を行い、奥州市江刺区岩谷堂地区の被災箇所においては水防活動(月の輪工法)を行い、迅速かつ的確な対応を実施した。
(株)拓和 仙台支店長 阿部 正宏 (仙台市)	平成20年6月14日の岩手・宮城内陸地震で、北上川支川磐井川流域に発生した河道閉塞・土砂崩落等の被災箇所における画像等の情報収集のため、衛星通信機材の設置・操作及び維持管理を行う緊急業務を迅速かつ的確に実施し、二次災害の防止や復旧工事に大きく貢献した。
一関消防団 一関第二分団 分団長 相澤 明	平成20年6月14日の岩手・宮城内陸地震で北上川支川磐井川流域に発生した河道閉塞に際し、磐井川流域の土石流対策のため、長期にわたり昼夜兼行で河川警戒監視を続け、二次災害の発生防止に大きく貢献した。
一関消防団 一関第四分団 分団長 佐々木 守美	平成20年6月14日の岩手・宮城内陸地震で北上川支川磐井川流域に発生した河道閉塞に際し、磐井川流域の土石流対策のため、長期にわたり昼夜兼行で河川警戒監視を続け、二次災害の発生防止に大きく貢献した。
一関消防団 一関第五分団 分団長 菅原 清手	平成20年6月14日の岩手・宮城内陸地震で北上川支川磐井川流域に発生した河道閉塞に際し、磐井川流域の土石流対策のため、長期にわたり昼夜兼行で河川警戒監視を続け、二次災害の発生防止に大きく貢献した。